

滋賀県地方六団体シンポジウム「みんなで考える自治」(概要)

- 日時：平成26年2月6日(木) 13:00～16:30
- 場所：愛東コミュニティセンター(東近江市下中野町)
- 主催：滋賀県地方分権推進自治体代表者会議
- 概要：滋賀県地方六団体を構成する県、市長会、町村会、県議会、市議会議長会、町村議会議長会が自治のあり方についての議論を深め、県民とともに考えるために平成20年度から開催。

◇基調講演

「地方分権改革は私たちに何をもたらしたか」神野直彦氏(東京大学名誉教授)

昨年12月に取りまとめられた「地方分権改革の総括と展望(中間取りまとめ)」を中心に過去20年間の地方分権の歩みを概説。今後は、地方からの提案募集方式、手挙げ方式を取り入れ、国主導から地方の発意による改革へと転換するとともに、改革の成果が住民に実感されるよう取り組むことが重要と説明。

◇パネルディスカッション1「地方議会を活性化するには」

パネリスト：小寺裕雄氏(滋賀県議会議会改革検討委員会委員長)

高橋健二氏(大津市議会議長)

本田秀樹氏(愛荘町議会議長)

コメンテーター：神野直彦氏(基調講演講師)

コーディネーター：大橋松行氏(滋賀県立大学人間文化学部教授)

「住民目線」、「政策検討会議」、「機能強化」をキーワードに議会改革条例の制定や大学との連携、外部委員による議会改革検討会議の設置など議会への住民の関心・参加の促進や機能強化を図るための取組を紹介。また、住民の声の聴き取り方や意見集約の方法などについて意見交換を行った。

◇パネルディスカッション2「基礎自治体のあり方について」

パネリスト：嘉田由紀子(滋賀県知事)

小椋正清氏(東近江市長)

竹山秀雄氏(竜王町長)

コメンテーター：神野直彦氏(基調講演講師)

コーディネーター：大橋松行氏(滋賀県立大学人間文化学部教授)

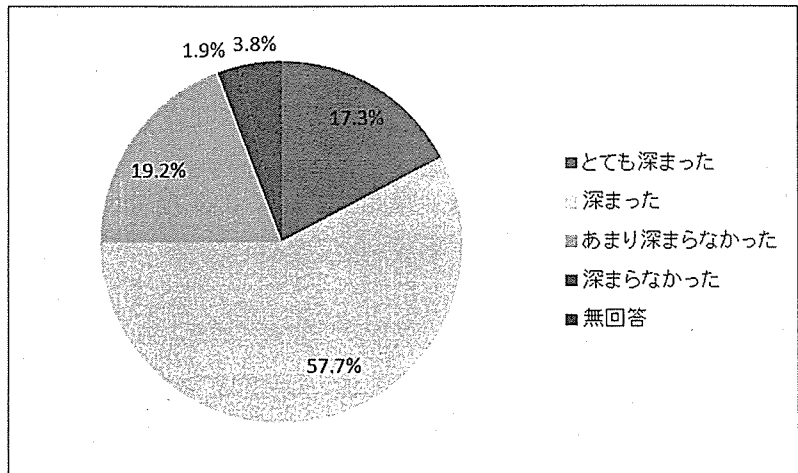
「地域力の向上 内発的エネルギー ∞⇔人の力」、「ふるさと 村の鎮守」、「不安を安心と希望へ おめでとう、ありがとう」をキーワードに、コミュニティの強化や地域力の向上、合併後の各地域の多様性のブラッシュアップ、基礎自治体と広域自治体が車の両輪として役割を果たすことなど、基礎自治体のあり方について取組紹介と意見交換を行った。

<参加者内訳>

県外	5
一般	23
県	20
市長会	56
町村会	35
県議会	7
市議会	205
町村議会	15
計	366

<参加者アンケート結果>

○「地方自治への理解は深まりましたか」



○主な感想

基調講演について

・地方分権改革の議論を中央でされていた神野先生の話が聞いたことはとてもよかった。特に分権改革で住民が実感していないことには、意味がないといった話は強く納得しました。これから、行政、議会が視点をどこに持つべきかがよくわかった。

・前半は難しかったが、後半しっかり聞いた。中央から下りてくることを地方がこなすのではなく、手挙げ方式で地方が主導で行っていくことが大事とのお話に共感、納得。

パネルディスカッションについて

・わかりやすく、よく特色が出ていてよかった。県と市町との間が少し縮まったように思えた。

・それぞれの立場からの発言が参考になった。パネルディスカッションの時間が短い。もう少し議論が深まる場に時間を長くしてほしい。

運営について

・これまで参加したシンポジウムの中で、内容が一番良かった。これまでは議会も首長もわが町自慢が多かったが、住民主体の自治、民主主義の活性化について、議会が進むべき方向についての議論が聞いたかと思う。

・「みんなで考える」と銘打たれているのに、いわゆる関係者の方ばかりな気がしました。「みんな」というより「一部の人が考える」の方が合うかと思った。だからちょっと浮いている感じで少し居づらかった。